

TG Grand Vision 150（東北学院中長期計画）
第Ⅱ期中期計画（2021～2025 年度）全体総括報告書

学校法人東北学院企画委員会

建学の精神

東北学院の三校祖、押川方義、W・E・ホーイ、D・B・シュネーダーは、東北学院の建学の精神を、宗教改革の「福音主義キリスト教」の信仰に基づく「個人の尊厳の重視と人格の完成」の教育にあるとした。

その教育は、聖書の示す神に対する畏敬の念とイエス・キリストにならう隣人への愛の精神を培い、文化の発展と福祉に貢献する人材の育成を目指すものである。

スクールモットー

「LIFE LIGHT LOVE」

東北学院の「建学の精神」を象徴するスクールモットー、「LIFE LIGHT LOVE」とは、イエス・キリストの「命（いのち）」・「光（ひかり）」・「愛（あい）」を指します。キリストの命が私たちに与えられ、キリストの光が私たちを照らし、キリストの愛が私たちを包んでいます。それゆえ私たちもまた人々の命のために仕え、人々に光を与えるために働き、人々を自分のように愛するのです。これは聖書を根拠にした本院に関係するすべての人々に対する教えであり、本院の創設時から大切にされてきた言葉です。

LIFE（いのち）とは、有限な生命体の命と、神が自らの似姿として創造された個人の尊厳を互いに大切にすることです。

LIGHT（ひかり）とは、学問や科学の成果によって新しい時代を切り開くことです。

LOVE（あい）とは、隣人愛をもって地域や世界に仕えることです。

東北学院教育の基本方針

東北学院は創立以来、本法人に所属する各教育機関において一般の教育・研究活動と共に福音主義キリスト教に基づく宗教教育を一貫して行ってきた。

今後ともそれぞれの教育機関は、正規の学校行事としての礼拝と正課必修としてのキリスト教教育を不変のこととして実施していくものとする。

学校法人東北学院の経営理念

学校法人東北学院は、建学の精神の堅持を根本理念とし、次の三つの基本方針により教育事業の経営にあたる。

1. 教育事業を安定的に持続させる経営
2. 社会的に適切とされる経営
3. 社会に対して説明責任をはたす経営

ビジョン（法人全体における 2036 年将来像）

ゆたかに学び 地域へ 世界へ

- よく生きる心が育つ東北学院 -

目 次

第Ⅱ期中期計画の総括にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第Ⅱ期中期計画に係る学校法人東北学院企画委員会全体総括・・・・・・・・	2
1. TG Grand Vision 150 及び第Ⅱ期中期計画の概要・・・・・・・・	5
2. 第Ⅱ期中期計画における法人事務局及び各設置学校の主な実績・・・・・・・・	13
(1) 学校法人東北学院（法人事務局）	
(2) 東北学院大学	
(3) 東北学院中学校・高等学校	
(4) 東北学院榴ヶ岡高等学校	
(5) 東北学院幼稚園	
3. 第Ⅱ期中期計画 実行計画グッドプラクティス・・・・・・・・	21
4. 第Ⅱ期中期計画における社会的評価（インパクト評価）・・・・・・・・	23
(1) 18 歳人口（東北地区）と東北学院大学志願者数の推移	
(2) 宮城県の中学校 3 学年生徒数と東北学院高等学校・東北学院榴ヶ岡高校別志願者数の推移	
(3) 宮城県の小学校 6 学年児童数と東北学院中学校志願者数の推移	
(4) 東北学院大学の卒業生に対する就職先からの学修成果調査の推移	
5. 第Ⅱ期中期計画の変遷：第Ⅰ期総括から第Ⅲ期策定まで・・・・・・・・	29

第Ⅱ期中期計画の総括にあたって

学校法人東北学院

理事長 原田 善教

2016年に公表された東北学院中長期計画 TG Grand Vision 150 は、東北学院が創立 150 周年を迎えたときにどんな学校でありたいかを問うものであり、現在の延長線上ではなく創立 150 周年の姿からバックキャストするものである。創立 150 周年を迎えたときの東北学院の姿は、東北・北海道地区で「比類なき学校」＝「社会から選ばれる学校」となっていることである。

TG Grand Vision 150 は、東北学院が明確なブランド色を打ち出し、地域におけるプレゼンスをさらに高めることで、この危機を乗り越え、さらには危機をチャンスに変えるための計画である。そこでは各設置学校の将来像が示され、その実現に向けて創立 150 周年に至る 20 年間のロードマップを提示し、20 年間を 5 年ごとの 4 期に区分し、それぞれの期における全体及び各部門の達成目標を明示し、その実現に向けた年度ごとの実行計画（重点項目）を策定し実行するものである。

2020 年度に第Ⅰ期中期計画の終了を迎え、中間検証をふまえてそれまでの総括と課題及びその改善方をまとめた。それを受けて策定された第Ⅱ期中期計画が 2025 年度に終了したので、これまでと同様に中間検証をふまえて全体総括を行うものである。

第Ⅱ期中期計画における各部署の進捗状況は概ね順調であったものの、①計画がどうしても総花的になり総数過多となりがちであること、②KPI、KGI といった指標の難易度が部局ごとに異なっていること、③期間の途中で計画を見直す機会を設けること、といった改善に向けての課題が見出された。これらを踏まえて、計画を厳選し、指標の質的向上を図り、実効性を高めるモニタリングを行うことを盛り込んだ 2026 年度から始まる第Ⅲ期中期計画の策定が行われた。

第Ⅱ期中期計画の 5 年間で実現された特徴的なものをいくつかまとめておこう。まずは大学五橋キャンパスの完成と供用開始とともに 4 学部 5 学科の新設である。このことによって大学を取り巻く環境は大きく変わり、教育内容の質向上にも努めた結果、卒業生に対する社会からの評価が高まるとともに、2025 年リクルート進学総研「進学ブランド力調査 2025」で東北エリアの高校生が志願したい大学 1 位となった。中学校・高等学校は共学化を伴う「未来学力」をキーワードとする学校改革を行い、志願者数が大きく伸び競争力ある学校へと進化した。榴ヶ岡高等学校は旧大学泉キャンパス 2 号館に移転し、教育環境を充実させたことによって競争力を大きく向上させた。幼稚園は子ども・子育て支援新制度に基づく施設型給付幼稚園に移行し安定的な運営を実現している。なお、詳細については本文書を参照されたい。

2026 年度から始まった第Ⅲ期中期計画は第Ⅳ期中期計画とともに、創立 150 周年まであと 10 年しかないという意識で実現すべき将来像に向けて策定されている。これまでの中期計画の総括をふまえて、一層の力強い前進を大いに期待するものである。

第Ⅱ期中期計画に係る学校法人東北学院企画委員会全体総括

学校法人東北学院企画委員会委員長

常任理事（総務担当）阿部 重樹

学校法人東北学院企画委員会（以下、「企画委員会」と記す）では、「TG Grand Vision 150（東北学院中長期計画）」で掲げるビジョン及び将来像の実現に向け、各期中期計画の管理運営及び進捗管理を担ってきた。この度、2021年度から5年間にわたり推進してきた第Ⅱ期中期計画が2025年度をもって期間終了となった。第Ⅱ期は、新型コロナウイルス感染症の拡大という未曾有の社会情勢に直面しながらも、初の評価指標（KGI：Key Goal Indicator¹、KPI：Key Performance Indicator²）の導入や組織的なブランディング事業の実施等を通じて、本院の経営基盤と教育・研究環境の質的転換を図る極めて重要な変革期であった。

本報告書は、第Ⅱ期における多様な試みと成果を客観的に検証し、浮き彫りとなった計画策定・運用上の課題を真摯に受け止め、現在進行中である第Ⅲ期中期計画（2026～2030年度）を確実な成功へと導くための資産とするべく、企画委員会における全体総括を取りまとめたものである。

＜第Ⅱ期中期計画の全体構成＞

第Ⅰ期中期計画（2016～2020年度）の総括を踏まえ、本院においては、目指すべき将来像をより具体的に可視化し、計画の実効性をさらに高めることが次なる課題となっていた。そこで、企画委員会ではTG Grand Vision 150の全体像を見直し、建学の精神を最上位に据え、スクールモットー「LIFE LIGHT LOVE」のもとに、法人事務局及び各設置学校の将来像を明確に定めた。この将来像の具現化に向けて、本院のブランドアップに寄与する重点計画として、第Ⅱ期の政策目標・施策を策定し、各部署等が作成する実行計画に至るまで、一貫性を持たせた計画づくりを行った。

また、第Ⅱ期の原案策定にあたっては、若手・中堅教職員によるワーキンググループの設置を通じて、ボトムアップでのアプローチを重視した。さらに、本院教職員を対象としたパブリックコメントを導入し、企画委員会での精査を経て計画を完成させるなど、組織内のコミュニケーションを深化させるプロセスを展開した。

＜第Ⅱ期中期計画の特色＞

第Ⅱ期の最大の特徴は、評価指標（KGI、KPI）による進捗管理の仕組みを初めて導入したことにある。初の試みであったことから、まずは指標管理の概念や意義について説明の機会を複数回設け、学内への周知と理解の浸透を図った。また、計画の確実な実行と目標達成に向けて、各施策に実施主体部署を明確に設定し、現場が主体的かつ着実に計画を推進する体制を整備した。これは、第Ⅰ期の総花的な計画からの脱却とともに、本院のブランドアップに直結する施策へと計画を厳選・集約することを目指したものである。

＜第Ⅱ期中期計画の実績＞

第Ⅰ期から全体構成や運用方針を大きく刷新したなかで、第Ⅱ期は183件の実行計画から運用を開始した。KPIの指標管理については、企画委員会が設定した基準に基づき、事務局庶務部企画課が実施主体部署に対して適宜フォローアップを行いながら運用を推進した。

¹ KGI（重要目標達成指標/Key Goal Indicator）：計画期間における「最終的な成果」を数値で表した指標

² KPI（重要業績評価指標/Key Performance Indicator）：目標に向けた活動の進捗・達成状態を計るための数値で表した指標

2021 年度から 2023 年度にかけては、新型コロナウイルス感染症の拡大により計画の一部変更（縮小）や中止を余儀なくされた。しかし、その禍中においてさえも法人事務局及び各設置学校は、TG Grand Vision 150 が目指す方向性を見失わず、社会動向を踏まえた柔軟な事業運用を展開し、第Ⅱ期中期計画は計画期間を通じて多くの成果と実績をあげた。なお、各部門の具体的な実績については、13 頁「2. 第Ⅱ期中期計画における法人事務局及び各設置学校の主な実績」を参照されたい。

また企画委員会では、2023 年度に実行計画に関する KPI の妥当性を含む点検・検証を行い、その結果を踏まえて 2024 年度には KGI の進捗確認及び KGI 設定の妥当性に関する中間検証を実施した。なお、2023 年度の点検・検証においては、期中において具体的かつ計画的に事業を推進している 12 の実行計画をグッドプラクティスとして紹介・表彰する機会を創出した。当該部署のモチベーション向上に加え、共通の目標に向かう組織の一体感の醸成を図った。同様に第Ⅱ期終了時においても、本院のブランド力向上に大きく寄与した 7 計画を新たにグッドプラクティスとして選定した。

さらに、第Ⅱ期の政策ステップで掲げた「新しい TG ブランドの確立」に向け、企画委員会所管の「学校法人東北学院ブランドデザインプロジェクト」を発足した。このプロジェクトでは、法人新ブランドマークの策定をはじめ、クレドカードや襟章の作成、名刺のリニューアル等を実施し、インナーブランディング及びアイデンティティの再構築の促進を図った。

これら各部署等の主体的な取り組みとブランディング事業の相乗効果は、社会的評価（アウトカム）としても示されている。各設置学校の志願者数についてみるならば、急激に少子化が進む厳しい環境下にあっても、志願者数の増加、あるいは堅調を維持、微減にとどめるなどのことから、確かな成果へとつながっていると考えられる（23 頁「4. 第Ⅱ期中期計画における社会的評価（インパクト評価）」参照）。

＜第Ⅱ期中期計画の課題＞

第Ⅱ期では多くの成果が得られた一方、複数の課題も浮彫りとなった。具体的には、例えば法人全体で設定した政策目標（KGI）の 59.6%（約 6 割）が未達に終わっていることが指摘される。この背景には、2024 年度の中間検証でも指摘されたとおり、評価指標の設計・運用における以下 3 つの要因がある。

- 政策目標に適合していない KGI が存在したこと。
- KGI の目標値設定自体に精査の余地があったこと。
- KGI と KPI の連動性が不十分であったこと。

第Ⅱ期の計画策定当初、政策目標は上位目標であり、組織の方向性を示すという性質上、この目標に設定された KGI を状況に応じて柔軟に変更することは想定していなかった。これらの KGI に係る課題は、第Ⅲ期における指標管理の精度向上に向けた主要な論点になっているものと捉えている。

また、実行計画の数については、第Ⅱ期開始時に「ブランドアップに寄与する計画」への絞り込みを大前提とし、第Ⅰ期最終年度比で約 5 割の削減（第Ⅰ期最終年度：360 件→第Ⅱ期初年度：183 件）を達成した。しかしながら、企画委員会では各部署等の主体性を尊重し、大きな問題がない限り、申請を承認する運用形式となっていたため、いわゆる総花的な計画からの脱却を目指しながら、結果としてその意図を必ずしも十分に達することができなかった。

この反省を踏まえ、第Ⅲ期中期計画においては、優先的・重点的に実施すべき実行計画に対し、経営資源の効果的な投入が可能となるよう、運営体制の見直しと計画全体の一層のスリム化を図った。その結果、第Ⅲ期初年度の実行計画は 95 件にまで厳選されている。

＜第Ⅲ期中期計画に向けた抱負＞

第Ⅲ期は、管理ステップにおいて「指標に基づく実行計画の確実な履行」から「指標管理によるマネジメントの強化」へ、次のステージに移行する。企画委員会としては、第Ⅲ期において、第Ⅱ期で浮き彫りとなった各課題の改善策を講じつつ、柔軟かつ精度の高い進捗管理体制の整備を一層推進する。法人全体の目標達成に向けたマネジメントの高度化を図るとともに、第Ⅲ期中期計画の円滑な進捗と新しいTGブランドの確立・展開に向けて取り組んでいく。

1. TG Grand Vision 150 及び第Ⅱ期中期計画の概要

学校法人東北学院では、創立 150 周年の節目（2036 年）に向けた中長期計画「TG Grand Vision 150」を 2016 年度より推進しています。建学の精神「キリスト教人格教育」とスクールモットー「LIFE LIGHT LOVE」のもと、「ゆたかに学び 地域へ 世界へよく生きる心が育つ東北学院」をビジョンに掲げ、20 年間の展望を 4 フェーズに分けて着実に歩みを進めてまいりました。

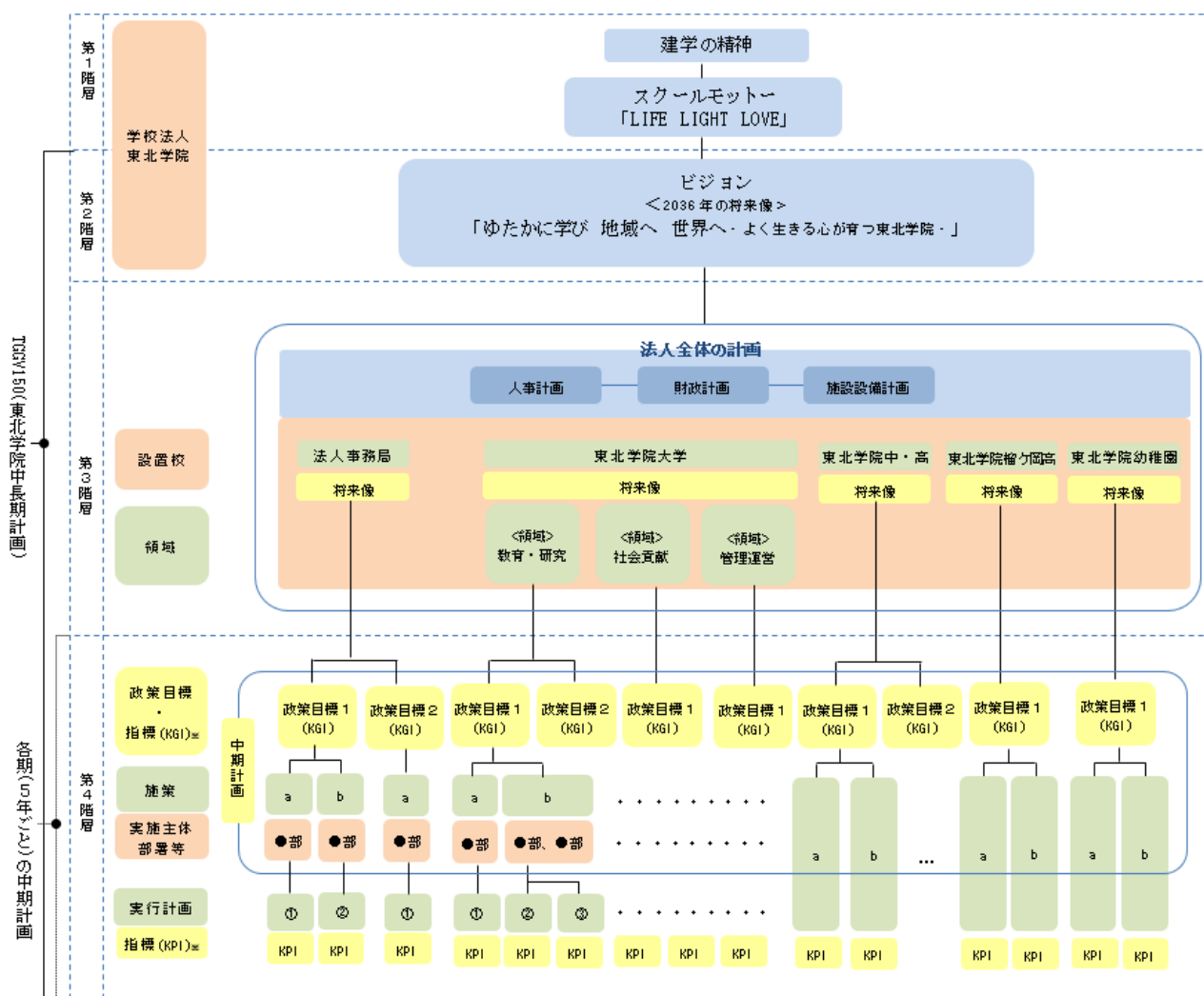
以下に、2021 年度から 2025 年度にわたる「第Ⅱ期中期計画」の概要をまとめます。

ビジョン（法人全体における 2036 年の将来像）

「ゆたかに学び 地域へ 世界へ - よく生きる心が育つ東北学院 -」

このビジョンは、学生、生徒及び園児に「建学の精神」が示す「キリスト教による人格教育」を基礎とした柔軟かつ幅広い視野で物事を捉える力を「ゆたかに」教授することにより、地域ひいては世界へ奉仕し、貢献する人材が育つことを期待するものです。このことは、今日の最先端の学問だけでなく、人格教育を受けることが、より「よく生きる」ために欠かせないことを意味します。

TG Grand Vision 150 及び第Ⅱ期中期計画 全体構成

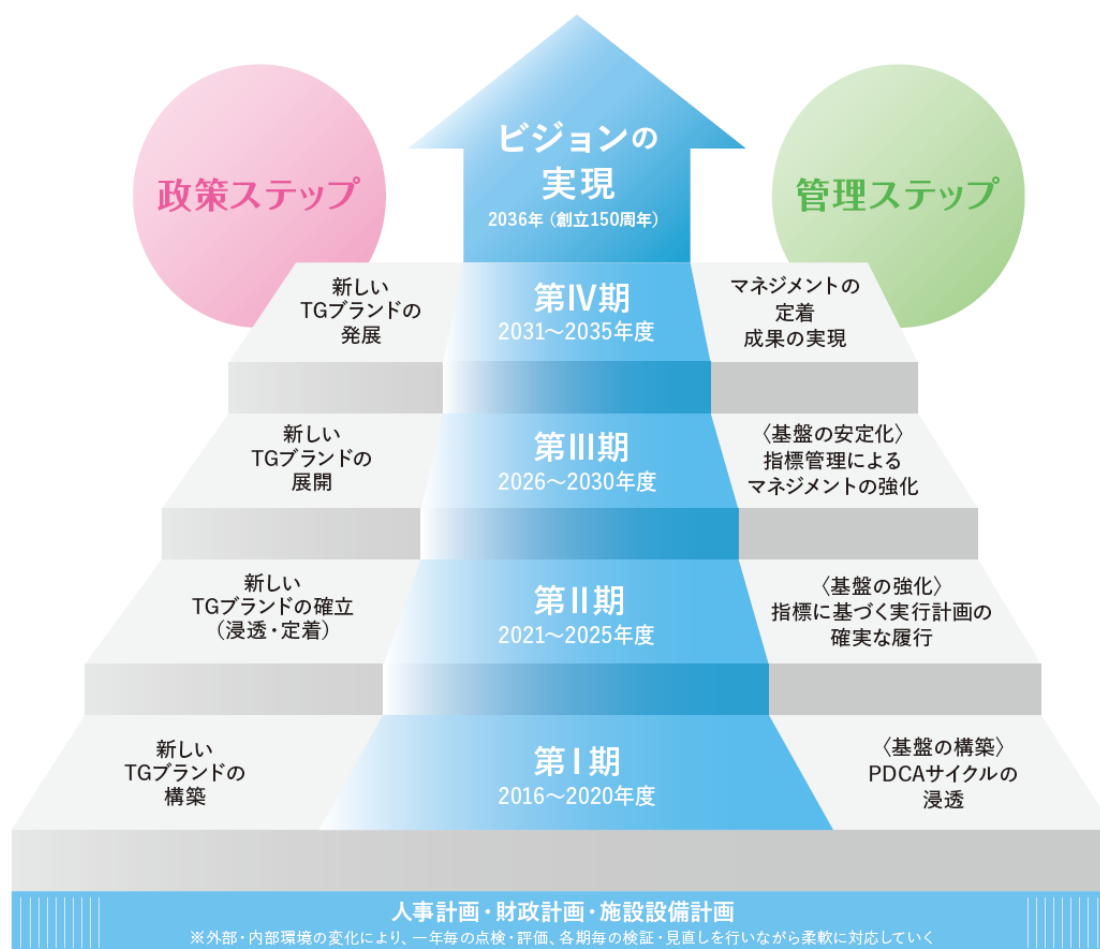


法人事務局及び設置学校の将来像（新しい TG ブランド）

法人事務局及び設置学校ごとにビジョンを達成するための育成する人材像や目指す姿（新しい TG ブランド）を 2036 年の将来像として掲げています。

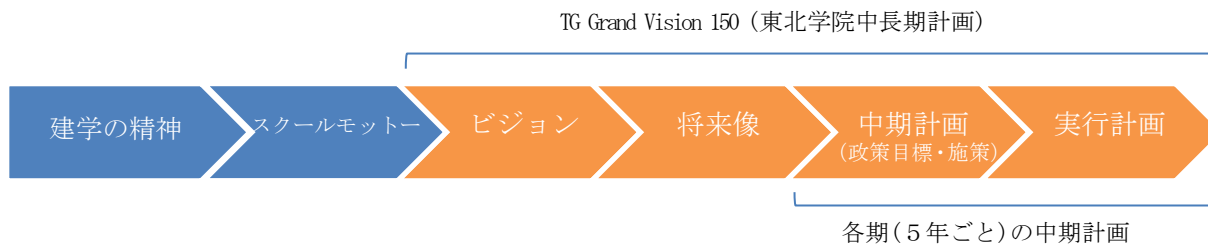
学校法人東北学院 （法人事務局）	建学の精神に基づく各設置校の教育を持続的に行い、柔軟で効率的な組織と安定した経営基盤を構築する。
東北学院大学	建学の精神に基づく教育により人格が涵養され、地域に貢献する高度な教養と専門的な知識・能力を兼ね備えた人材を輩出する私立総合大学となる。
東北学院中学校・高等学校	建学の精神に基づく教育を通して、自ら考え自ら判断できる力を養うとともに、ミスを恐れずチャレンジする生徒を育てることによって地域の信頼を得、地域をリードする学校となる。
東北学院榴ヶ岡高等学校	建学の精神に基づく教育のもとで、個々の目標に応じた教育活動が的確に行われる「学びたい・入りたい」高校として社会に評価される学校となる。
東北学院幼稚園	キリスト教教育の下、イエス・キリストとの交わりに支えられ、今の時を喜びと感謝をもって生き、聖書のみ言葉より生涯にわたる生き方の基礎を培い、隣人と共に生きる社会を作る人間としての基礎を育む幼稚園となる。

ビジョンの実現に向けた「政策ステップ」及び「管理ステップ」



計画全体の考え方 （建学の精神から実行計画までの一貫性の保持）

TG Grand Vision 150 では、建学の精神とスクールモットーを踏まえたビジョンの実現に向けて、目標の最上位となる建学の精神から各部署等が取り組む実行計画に至るまで一貫性を持たせています。



第Ⅱ期中期計画における基本原則

TGGrandVision 150の確実な実行、達成を目指すために、第Ⅱ期中期計画では以下の5つの原則のもと、計画を実施しました。

① 東北学院ブランドアップに寄与する計画
将来像を踏まえ、本院のブランドアップに寄与し、重点的に取り組むべき計画について各期において見直しを図り、計画（政策目標・施策）を策定する。
②定量的・定性的に評価できる指標による達成度・進捗度の可視化
将来像を確実に実現するために政策目標・施策を策定し、第Ⅱ期（5年）で達成と判断できるゴールを評価できる指標（重要目標達成指標：Key Goal Indicator） ³ を設定する。また、政策目標・施策のもとに各部署等が取り組む実行計画についても指標（重要業績評価指標：Key Performance Indicator） ⁴ を設け、進捗管理等を行う。
③人事計画、財政計画及び施設・設備計画を踏まえた各設置校の計画との連動
「学校法人東北学院の経営理念」の実現を図るため、上記3計画を法人全体の計画として掲げ、各設置校においてその方向性を踏まえた具体性のある実行計画を策定し、計画の確実な実行、達成に繋げる。いずれの計画もTG Grand Vision 150及び中期計画と計画期を統一し、実行性を高める。
④予算編成との連動強化
中期計画の実行性を担保するために予算編成方針との連動を強化する。
⑤実施主体部署の設定
第Ⅱ期中期計画を確実に実行・達成するために、各施策に対して実施主体部署を設定した。これにより、各期（5年間）の中で取り組む実行計画は実施主体部署が実行することとする。

³ KGI（重要目標達成指標/Key Goal Indicator）：計画期間における「最終的な成果」を数値で表した指標

⁴ KPI（重要業績評価指標/Key Performance Indicator）：目標に向けた活動の進捗・達成状態を計るための数値で表した指標

第Ⅱ期中期計画における政策目標

(1) 学校法人東北学院（法人事務局）

領域	NO,	政策目標
教育・研究	1	建学の精神を浸透させ、よく生きる心を有する人材を育成する。
	2	長期的計画に基づく設置学校の教育・研究環境の整備・充実を図り、快適なキャンパスや学習環境を構築する。
	3	歴史的建造物を有する学問の府のイメージを社会により深化させ、東北学院のブランド力を向上させる。
管理運営	1	志願者数を増加させる施策を導入し、高い能力と意欲を持った学生を確保する。 【主管部門：大学】
	2	東北学院のブランド力を向上するために、在校生、教職員及び卒業生の愛校心を向上させ、社会的に認知される。
	3	迅速な意思決定及び実行を可能とするために、合議体による意思決定の仕組みの見直し及び整理統合を行い、ガバナンス体制を改善させる。
	4	教職協働の概念のもとに教員の教育・研究の質を高め、職員を高度化するための人事政策を推進する。
	5	職場環境の改善によって、教職員を活気づけ、教育・研究活動あるいは業務の改善・創造・活性化につなげる。
	6	危機管理体制の強化、周知、訓練等によって、安全な教育・研究環境を整備する。
	7	教育・研究活動を維持・発展向上させるための安定的な財政基盤を構築する。

(2) 東北学院大学

領域	NO,	政策目標
教育・研究	1	学位授与の方針に掲げる知識と能力を兼ね備えた人材を輩出するために、教育内容の充実を図り、社会に求められる人材を育成する。
	2	建学の精神を浸透させ、よく生きる心を有する人材を育成する。
	3	国際化を推進することにより、グローバル社会に通用する人材を育成する。
	4	研究体制の整備及び研究活動の活性化により、独創的かつ先進的な研究を創出する。
	5	学長のリーダーシップにより、建学の精神を基礎とした学位授与の方針に即した効率的かつ効果的な教育を実施する。
	6	学生支援の充実により、学生が安心して入学から卒業までの学生生活を送ることができる。

社会貢献	1	地域の課題解決を図る社会貢献型事業を展開することによって、地域の持続的発展に貢献する。
	2	生涯の学びの場を提供することによって、地域社会の多様な学修意欲を喚起する。
	3	学生が地域社会と積極的に交流する機会を設けることによって、豊かな人格形成と地域社会との信頼関係を構築する。
管理運営	1	長期的計画に基づく設置学校の教育・研究環境の整備・充実を図り、快適なキャンパスや学習環境を構築する。【主体部門：法人事務局】
	2	志願者数を増加させる施策を導入し、高い能力と意欲を持った学生を確保する。
	3	東北学院のブランド力を向上するために、在校生、教職員及び卒業生の愛校心を向上させ、社会的に認知される。【主体部門：法人事務局】
	4	迅速な意思決定及び実行を可能とするために、合議体による意思決定の仕組みの見直し及び整理統合を行い、ガバナンス体制を改善させる。【主体部門：法人事務局】
	5	職場環境の改善によって、教職員を活気づけ、教育・研究活動あるいは業務の改善・創造・活性化につなげる。【主体部門：法人事務局】

(3) 東北学院中学校・高等学校

NO,	政策目標
1	建学の精神に基づいた教育の充実を図り、キリスト教精神に基づいた人格教育を浸透させる。
2	適切な進路指導と情報共有の強化により、生徒一人ひとりの希望進路を実現する。
3	国際的視野を身に付けさせるために、グローバル教育の質的向上を図る。
4	学ぶ楽しさを実感し、自ら進んで学ぶ態度を育てるための授業づくりを推進する。
5	生徒の学びの質を向上させるため、家庭との連携を強化する。
6	探究的な学びの質を向上させ、高い思考力の育成を図る。
7	広報活動の充実を図り、安定的に入学者を獲得する。
8	専任教諭の比率を高め、質の高い教育を提供する。
9	生徒の安心・安全な学校生活を保証するため、施設設備の計画的な取替更新及び修繕を行う。

(4) 東北学院榴ヶ岡高等学校

NO,	政策目標
1	社会に貢献する姿勢を身につけるために建学の精神に基づく特色ある教育活動を展開する。
2	進学実績の躍進及び大学等で高い学びが実現できる生徒の育成のために、コース制における特色ある教育活動の体制を確立する。
3	主体的に学ぶ力を育むために 21 世紀型教育をリードする教育体制を構築する。
4	年齢構成のバランスに配慮された教育力のある教員の最適な人員構成を実現する。
5	教育活動を活性化するためにリーダーシップのとれる中堅教員の人材育成を実現する。
6	コース制を軸とした学校の特色づくりについて広く周知し、安定した志願者の獲得を目指す。
7	生徒一人ひとりが入学から卒業まで安全で快適な学校生活を送るため、時代のニーズに即した教育環境の充実を図る。

(5) 東北学院幼稚園

NO,	政策目標
1	礼拝・あそび・体験教育を通して、建学の精神に基づく人間的基礎教育を実践し、物事に主体的に取り組む、社会性、協調性のある子どもを育てる。
2	園児の健やかな成長を促すために、教員の資質を向上させる。
3	地域社会と交流する機会を設けることによって、隣人愛の精神を持ち、社会生活をよりよく生きる基礎と地域社会との信頼関係を構築する。
4	大学・高等学校・中学校との連携活動を通し、将来にわたり東北学院に連なることを喜び、キリスト教の精神をもって社会生活を営む資質を育てる。
5	キリスト教教育を通じて、園児に喜びと感謝の心を育むことができるよう、教員の最適な人員構成を実現する。
6	園の持続的発展の基礎となる健全な財政基盤を確立する。
7	快適な園生活を構築するために、施設設備計画に基づいた教育環境を整備・実現する。

2.第Ⅱ期中期計画における法人事務局及び 各設置学校の主な実績

第Ⅱ期中期計画における主な実績一覧

(1) 学校法人東北学院（法人事務局）

領域：教育・研究	実績（開始）年度
機関紙「いのち・ひかり・あい」、説教集の刊行、水曜公開礼拝の実施、各設置学校での祈祷会の開催、学生団体TGCFの活動促進等（東北学院宗教センター）	第Ⅰ期より継続実施
「東北学院の歴史」開講	2021年度～
『東北学院百年史』関連書籍群のPDF化完了	2021年度
東北学院旧宣教師館（デフォレスト館）の保存・整備事業の実施承認	2021年度
『東北学院150年史』編纂事業を開始	2024年度

領域：管理運営	実績（開始）年度
新聞・テレビ・シンポジウムを通じた本院卒業生の実績紹介など、外部への積極的な情報発信（東北学院史資料センター）	第Ⅰ期より継続実施
戦略的政策立案型職員の育成に向けた研修等の実施	第Ⅰ期より継続実施
スクールモットーの統一	2021年度
創立記念日に新聞3社（河北、朝日、読売）へ掲載した広告が仙台広告賞「金賞」を受賞	2021年度
学校法人東北学院ガバナンス・コード制定及び公表	2021年度
株式会社七十七銀行と「遺贈に関する連携協定」締結	2021年度
「東北学院創立150周年 LIFE LIGHT LOVE 募金」募集開始	2021年度～
「東北学院高等学校硬式野球部サポート募金」「五橋キャンパス開学に伴うオルガン移設募金」実施	2021年度
「東北学院大学キャンパス整備計画第3期（2022年度～2026年度）」策定	2021年度
新ブランドマーク制定	2022年度
「学校法人東北学院ブランドデザインプロジェクト」の実施（法人新ブランドマークの策定、本院の各種理念等をまとめたクレドカード及び襟章の作成並びに名刺リニューアル）	2022年度
大学キャンパス再編に伴う法人全体の人員配置及び新事務組織体制を確定	2022年度
泉キャンパス礼拝堂のパイプオルガンを五橋キャンパス押川記念館ホールへ移設	2022年度
大学五橋キャンパス新築工事竣工	2022年度
常務理事会及び経営戦略会議等において iPad と電子会議システムを組み合わせた会議運営の電子化開始	2022年度
大学五橋キャンパスの供用開始	2023年度
「東北学院大学キャンパス整備計画第3期（2022年度～2026年度）」に基づいた既存建物解体事業の実施	2023年度～
多賀城キャンパスの売却先としてミサワホーム及び東北ミサワホームと不動産売買契約を締結	2023年度
「第103回全国高校サッカー選手権大会出場支援募金」実施	2024年度
学校法人東北医科薬科大学と包括連携協定を締結	2024年度
東北学院大学泉キャンパス内に「TGベガルタ仙台フィールド」及びクラブハウスを整備	2024年度
新棟（大学土樋キャンパス）建設計画の発表	2025年度
『学校法人東北学院危機管理基本マニュアル』全面改訂	2025年度
グループウェア「Garoon」導入	2025年度

職員研修「業務研究」（各課年4回）実施	2025年度
「建学の精神の自分ごと化」プロジェクト実施	2025年度
改正私立学校法への対応（寄附行為等関連諸規程の改正を含むガバナンス改革を推進するための制度改正の実施）	2025年度

（２）東北学院大学

領域：教育・研究	実績（開始）年度
BYOD（Bring Your Own Device：学生PC持参による授業）導入	2021年度～
教養教育センター発足	2021年度
英語教育センターにおけるリーディング・ライティングテストの全学実施	2021年度
特待生及び優等生に関する規程の整備	2021年度
大学院委員会で、「東北学院大学ハイブリッド授業大学院構想」承認	2021年度
大学院ダブルメジャー検討部会設置	2021年度
全学でのアセスメントプランの構築と制定	2021年度 2022年度
ICTを活用した教育・学習環境の実現	2021年度
慶北大学校（韓国）と包括協定及び学生交換協定締結	2021年度
ベオグラード大学（セルビア）と包括協定締結	2021年度
オンライン短期留学の新設・募集（新型コロナウイルス感染症対策）	2021年度
オンラインによる国際交流イベントの実施（新型コロナウイルス感染症対策）	2021年度
新型コロナウイルス感染症対策に配慮した「TGインターンシップ」の開催	2021年度～2023年度
「科研費NEXT支援制度」策定	2021年度
河北新報社連携「大学生のための新聞の読み方講座」実施	2021年度
日替わり定食「TG ランチ」（200円（税込））の提供	2021年度
課外活動応援サイト（TG MIND）にてオンライン上で新歓活動実施	2021年度
「小学校外国語ボランティア活動」「学生サポートスタッフ」への学生派遣（仙台市教育委員会との連携）	2021年度
大手有名優良企業への就職を目指す学生対象「トップガン講座」開催 ※2023年度より「ハイキャリア講座」に名称変更	2021年度～
キャリアサポーターの制定	2021年度～
アナウンサー対策講座を開講	2021年度～
教員採用試験対策としてのアドバイザーの採用	2021年度～
文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」（「MDASH」）認定	2022年度
五橋キャンパス「ライブラリー・コモンズ」設置	2022年度
文部科学省「デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業」採択	2022年度
3年生対象のアセスメントテスト結果を用いたフォローガイダンス実施（西南学院大学共催）	2022年度
「学都仙台・宮城サイエンスデイ」協賛・参加	2022年度～2024年度
産学連携推進センターホームページによる大学のシーズ発信	2022年度
学修 eポートフォリオ「TG-folio」3年生向けにシステム運用開始	2022年度

「障害学生支援と就労移行に関する情報交換会」実施（東京大学PHED・京都大学HEAPと共同）	2022年度～2025年度
内部質保証ガイドブック作成	2022年度
大学院長期履修制度を運用する際の入学時における指導教員との面接を実施	2022年度～
五橋キャンパス開学	2023年度
東北学院大学地域総合学部地域コミュニティ学科・政策デザイン学科、情報学部データサイエンス学科、人間科学部心理行動科学科、国際学部国際教養学科を設置（届出）	2023年度
学修 eポートフォリオ「TG-folio」本格的な運用開始	2023年度
大学五橋キャンパスにラーニング・コモンズ「コラトリエ・ライブラリー」開設	2023年度
「学生会館レジディア仙台五橋プレイス」本学学生専用寮として運用開始	2023年度
エアライン講座とホスピタリティ・マネジメント講座を開講	2023年度～
「みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム（MASP）」参加	2024年度
公益財団法人大学基準協会による認証評価受審	2024年度
東北学院大学学術研究会と東北学院大学工学会を発展的に解消し、東北学院大学学術振興会の発足	2024年度～
学部新入生歓迎行事Welcome Day（4月第2週の3日間）を実施	2024年度～
休学・退学を防止するための新2年次生への履修指導を開始	2024年度～
グローバル教育センター発足	2024年度～
「第3の教育機関」等におけるピアサポート制度を実施	2024年度～
年内入学者のオリエンテーションを開催	2024年度～
MASP関連TGUスタートアップ支援体制の発足	2024年度～
スポーツ優秀学生授業料減免制度を廃止し、特別強化部を指定して、専任コーチを招聘	2024年度～
MDASH（応用基礎レベル）の経済・工学部での認定	2024年度～
大学院経済学研究科経済データサイエンス専攻修士課程を設置（届出）	2025年度
基幹教員制度を導入	2025年度～
JASSOによる大学院修士課程授業料後払い制度の導入	2025年度～
大学・大学院案内英語版の作成	2025年度～
MDASH（応用基礎レベル）の全学部認定	2025年度～
駐日韓国大使来学	2025年度
泉グラウンド野球場に夜間照明とソフトラバーフェンスを設置	2025年度～
泉グラウンド旧ラグビーグラウンドをベガルタ専用天然芝グラウンドに、旧サッカーグラウンドを人工芝にグラウンドに変更	2025年度～
大学院人間情報学研究科に公認心理師コース、経営学研究科に税務・会計プロフェッションコースと経営者・実務家スキルアップコース設置	2025年度～検討 (2026年度～実施)
大学院経営学研究科が履修証明プログラムを導入	2025年度～検討 (2026年度～実施)
大学入試 総合型にatama+導入、共通試験に5教科型導入	2025年度～検討 (2027年度入試～実施)
情報処理センターのIT教育支援センター（ITコモンズ）への改組	2025年度～検討 (2026年度～実施)
研究インテグリティ等の規程の実施	2025年度～検討 (2026年度～実施)
大学院修了教員奨学金返還免除の実施	2025年度～検討 (2026年度～実施)

大学院社会人入学者奨学金を全研究科入学者へ適用	2025年度～検討 (2026年度～実施)
アントレプレナーシップ共創教育センター発足	2025年度～検討 (2026年度～実施)
心理相談室発足	2025年度～検討 (2026年度～実施)
国際学術雑誌APCの大学負担を実施	2025年度～検討 (2026年度～実施)
個別共同研究等の研究費を目的志向型の「東北未来創造」研究助成事業に統合	2025年度～検討 (2026年度～実施)

領域：社会貢献	実績（開始）年度
学生・大学による災害・復興ボランティア活動の実施	第Ⅰ期より 継続実施
「仙台市地域づくりパートナープロジェクト」申請・採択（仙台市若林区及び荒町商店街振興組合との連携）	2021年度
「就職活動を行う学生を支援する『就活エール』」実施（株式会社河北新報社との連携事業）	2021年度～2025年度
「新聞を用いた読解力、コミュニケーション力等の向上を目指したセミナー」実施（株式会社河北新報社との連携事業）	2021年度
「地域企業の課題解決プログラム」実施（株式会社河北新報社との連携事業）	2021年度
「ゼミナール活動と連携した同社の課題解決プログラム」実施（株式会社エフエム仙台との連携事業）	2021年度～2022年度
「学生参画型番組の制作」実施（株式会社エフエム仙台との連携事業）	2021年度～2022年度
「パン店活性化企画」（株式会社河北新報社並びに本学との合同プロジェクト）が一般社団法人未来教育推進機構（UMEDAI）主催「SDGs探究AWARDS 2021」最優秀賞受賞	2021年度
「わが街マルシェ」開催	2022年度～2025年度
東北学院大学と株式会社東京商工リサーチ東北支社の連携協力に関する協定を締結	2023年度
仙台市、東日本電信電話株式会社との東北学院大学キャンパス周辺の人流把握及びデータ活用に関する連携協定を締結	2023年度
東北学院大学と東北財務局との地域活性化に関する包括連携協定を締結	2023年度
「地域企業の取材を通して社会を知り・伝える『学生記者』」実施（株式会社河北新報社との連携事業）	2023年度 2024年度
「未来の扉センター」開設	2023年度
地元ラジオ局との連携協定に基づく本学提供番組実施	2023年度
大学祭五橋祭を開催	2023年度～
近隣地域住民との五橋クリスマスを開催	2023年度～
「地域の新聞社から学ぶ一地域社会で活躍する人材になるー『公開講座』」実施（株式会社河北新報社との連携事業）	2024年度
「東北学院大学学生の購買行動に関する研究」実施（仙台ターミナルビル株式会社との共同研究）	2024年度 2025年度
クリスマスマルシェ開催	2024年度 2025年度
聖ウルスラ学院英智高等学校と包括連携協定を締結	2025年度
東北学院大学とフェリス学院大学の学生交流に関する協定を締結	2025年度
矢巾町と東北学院大学大学院経済学研究科との地域経済共同研究に関する協定を締結	2025年度
郡山市と東北学院大学大学院経済学研究科とのデータ分析に関する協定締結	2025年度
宮城県中新田高等学校、加美町との地域活性化を実現する人材育成に向けた包括連携協定を締結	2025年度
法政大学と東北学院大学との連携協力に関する協定を締結	2025年度

領域：管理運営	実績（開始）年度
新キャンパスの特設WEBサイト立ち上げ	2021年度
大学五橋キャンパス、新学部に関する積極的な広報活動（メディア関係（東北6県テレビ CM スポット放映）、WEB 広告（東北6県、北海道、新潟、北関東）、進学系メディアの活用、「新学部学科ガイド」の制作、新学部学科 WEB サイトのリニューアル等）の実施	2022年度
「東日本地域別スカラシップ選抜」立ち上げ	2022年度
スカラシップ選抜を含めた新聞広告（関東を含む東日本版）を展開	2023年度
学生のオープンキャンパス運営実施団体「ENTER」立ち上げ	2024年度

（３）東北学院中学校・高等学校

	実績（開始）年度
教育方針3「持続可能な開発のための教育(ESD)」の推進に向けた総合的な探究（学習）の時間「3L希望学」実施	第Ⅰ期より 継続実施
教育内容・方法を質的に転換し、学ぶ意欲を引出し、学力を身に付けられるような授業づくりの実施	第Ⅰ期より 継続実施
担任、学年会、いじめ問題対策委員会及び生徒支援部によるいじめ対策の強化及びいじめ防止研修の実施	第Ⅰ期より 継続実施
中高大一貫教育の連携強化	第Ⅰ期より 継続実施
ふるさとの杜再生プロジェクト	2022年度より 継続実施
広報と募集活動の充実に向けた学習・進学塾への訪問強化	第Ⅰ期より 継続実施
広報と募集活動の充実に向けた学校説明会の内容・運営等の改善	第Ⅰ期より 継続実施
スピーキングや異文化理解、個人発表等を行う「国内英語研修」実施	2021年度 2022年度
留学生と語り合うことで、社会課題の解決に繋げる力をつけることを狙いとした「エンパワーメントプログラム」の実施	2021年度 2022年度
新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した礼拝実施・録画配信	第Ⅰ期より 継続実施 ～2022年度
共学化に伴う校舎等施設設備改修および通学路安全対策強化	2021年度 2022年度
生徒の学校生活の維持向上に資する施設設備整備（空調、LED化、サッカー場人工芝（一部、支援募金充当）、情報環境等の更新他）	2021年度～
共学化に向けた教職員の意識改革、授業力の向上及び在校生の啓発等の実施	2021年度～
「Google for Education」事例校認定	2021年度～
東北学院大学推薦資格 CEFR A2以上取得の義務付け	2022年度～
「未来学力」を育てる共学化を伴う学校改革	2022年度～
進路資料のデータベース化（「デジタル版」化）	2022年度
野球場人工芝新設他関連施設設備整備（硬式野球部サポート募金事業）	2021年度 2022年度
東日本初「Nisai British International Online School」認定	2023年度～
東北学院大学との連携「アントレプレナーシップ事業」	2024年度～

(4) 東北学院榴ヶ岡高等学校

	実績（開始）年度
東北学院大学との連携強化（宗教教育、英語教育、ICT教育他）	第Ⅰ期より 継続実施
授業公開の推進と授業力の向上	第Ⅰ期より 継続実施
主体的学習態度の形成に向けた教育内容・方法（アクティブ・ラーニング）の質的転換の推進	第Ⅰ期より 継続実施
魅力ある学校づくりのための特色ある教育（第二外国語[独語・仏語・中国語]の充実）	第Ⅰ期より 継続実施
教員対象英語力向上支援プログラム実施	第Ⅰ期より 継続実施
特別進学コースにおけるSTEM教育・課題研究（・放課後タイム）の実施	第Ⅰ期より 継続実施
TG選抜コースにおけるTGタイム、グローバル教育の実施	第Ⅰ期より 継続実施
生徒会を中心としたボランティア活動	第Ⅰ期より 継続実施
各部活動を中心としたボランティア活動	第Ⅰ期より 継続実施
中学校訪問の強化	第Ⅰ期より 継続実施
探究活動を主体とする課題研究の取組の体系化	2021年度～
ピア・ラーニングの手法による学び合い活動及びピア・チューターによる相談体制の導入	2021年度～
特別進学コースを中心とした放課後の活用による学習支援の充実	2021年度～
外部講師を活用したグローバル教育の推進	2021年度～
第二外国語の授業設定により語学学習に積極的に取り組むTG進学者の育成	2021年度～
英語の資格取得を必須化する英語教育の推進	2021年度～
高大接続専門委員会を通じた東北学院大学との新たな連携事業の強化	2021年度～
「TG 推薦入学生」「総合型選抜」による大学合格者入学前教育「プレカレッジ」実施	2021年度～
授業力向上委員会（旧：21世紀型教育研究委員会）を中心とした新しい教育方法の積極的導入及び実施	2021年度～
授業方法の先進事例の情報収集による、主体的・対話的で深い学びに繋がる教育活動の推進	2021年度～
定期的な授業見学の実施による授業力の向上	2021年度～
礼拝・総合的な探究の時間・学校行事等を通じた建学の精神の理解促進	2021年度～
中堅教員が主体的に取り組む「学年主体の活動からコース主体の活動への転換」を図る教育活動の推進	2021年度～
長期休業期間も利用した社会奉仕活動を積極的に取り入れた年間計画の策定	2021年度～
即戦力となる他校経験者及び再任用対象者の積極的な採用	2021年度～
分掌における業務担当の主担当制度を導入した分掌運営	2021年度～
キリスト者教員の採用に向けたネットワークの構築	2021年度～
本校 HP における学校生活の動画配信、TV 等の CM、SNS を活用した広報活動	2021年度～
旧大学泉キャンパス 2 号館への校舎移転	2025年度

（５）東北学院幼稚園

	実績（開始）年度
建学の精神を知る活動（園児土樋訪問、クリスマスコンサート、発表会開催、TGCFによる異文化交流、ボランティア活動）	第Ⅰ期より継続実施
大学との連携・交流活動の実施（英語活動）	第Ⅰ期より継続実施
中・高との連携・交流活動の実施（職場体験・東北学院高等学校３L実習受入れ）	第Ⅰ期より継続実施
地域との交流活動の実施（地域訪問、高齢者施設訪問）	第Ⅰ期より継続実施
教職員の質向上に資する研修計画の策定と実施	第Ⅰ期より継続実施
年間礼拝計画の策定と宗教センターとの連携による信徒による礼拝説教の実施	2021年度
新たな体験教育の実施（ベガルタ仙台サッカー教室、田植え体験、東北学院大学工学部によるサイエンス体験など）	2021年度
子ども子育て支援新制度への移行に伴う運営規定の制定及び各種規程の改訂	2022年度
制度に合致した利用定員・人員体制等の整備	2022年度
施設維持費新規徴収	2022年度
事務システム「コミュなび」導入による事務業務・バス運行・配付物web 配信等一括管理開始	2022年度
保育園2施設との連携協定締結	2022年度
教育課程改定及び食育計画の策定	2022年度
新規課外活動「ECCジュニア英語教室」「学研教室」開校	2022年度
多賀城市保育・教育施設等と小学校との連携事業開始	2022年度
創立60周年記念公演実施（劇団かかし座による影絵公演「不思議の国のアリス」）	2022年度
未就園児活動の強化を目的とした主幹教諭の配置	2023年度
満3歳児受入れ方針策定	2023年度
「幼稚園バス置き去り防止システム」設置	2023年度
園児募集に資する広報活動の拡充（多賀城市発刊物への広告掲載、Instagramの開設）	2023年度
卒園児の東北学院中学校入学時の入学金全額免除制度制定（2028年度入学生より）	2024年度
教員の処遇改善につながるキャリアアップ制度の制定	2025年度

3. 第Ⅱ期中期計画「実行計画グッドプラクティス」

第Ⅱ期中期計画「実行計画グッドプラクティス」について

学校法人東北学院企画委員会では、政策目標の実現に向けて具体的かつ計画的に推進され、本院のブランド力向上に寄与した以下7つの優良事例を「グッドプラクティス」として選定しました。

※「実行計画グッドプラクティス」選定基準：

以下の①または②に該当する実行計画をKPI達成率や中間検証における評価結果を参考にしながら総合的に判定。

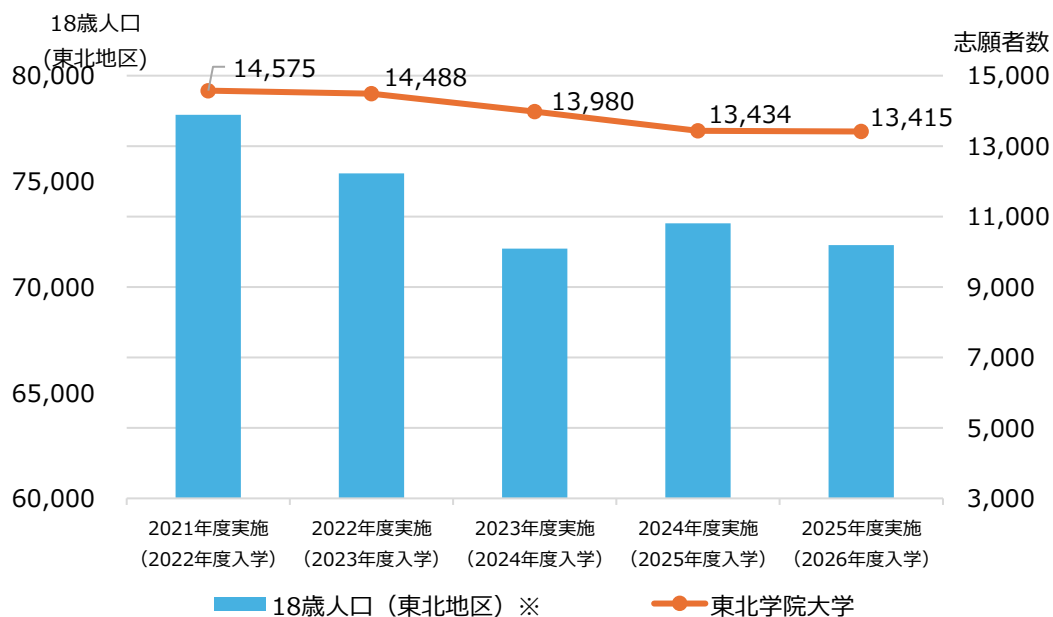
①KGI達成への貢献度が高く、KGI目標値達成の主動力となった計画であること【KGI貢献型】

②創意工夫や学内外への波及効果が秀でており、社会的インパクトの創出や組織の成長力・競争力の強化に繋がった計画であること【付加価値型】

実施主体部署	計画番号	実行計画名
宗教センター [法人事務局]	A221-01-2021	学院の教職員全体への「建学の精神」の理解を深めるための施策
学生健康支援課 [大学]	B219-01-2021	障がいを持つ学生の就労支援に関する連携強化
ラーニング・コモンズ [大学]	B217-09-2021	ラーニングコモンズを中核とした学習支援体制の構築および学生スタッフの育成
地域連携センター [大学]	B221-09-2021	地域の課題解決に向けた教育プログラムの構築
国際交流部 [大学]	B211-01-2021	オンキャンパス国際交流
中学校・高等学校	C207-01-2021	学習・進学意欲及び思考力に富んだTG推薦進学希望者の育成
榴ヶ岡高等学校	D208-01-2021	TG選抜コースにおける中国語・ドイツ語・フランス語の学校設定科目の開設

4. 第Ⅱ期中期計画における社会的評価(インパクト評価)

(1) 18歳人口（東北地区）と東北学院大学志願者数の推移



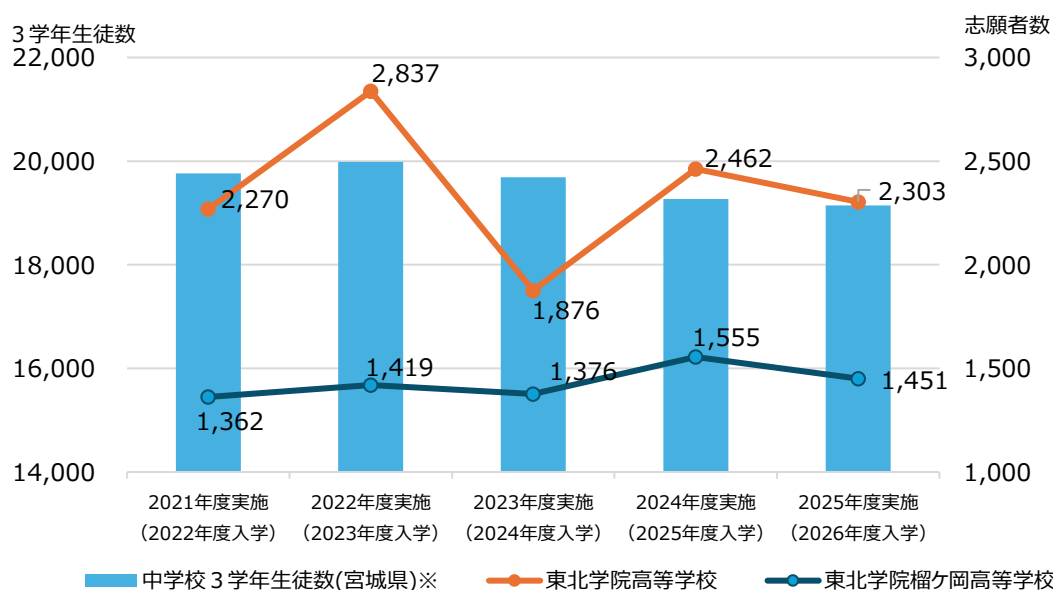
入学定員：東北学院大学 2,656名（2021・2022年度）、2,716名（2023～2025年度）

＜出典＞文部科学省「学校基本調査」（令和元年度～令和5年度）

※18歳人口（東北地区）は3年前の中学校卒業生、中等教育学校前期課程修了者数及び義務教育学校卒業生数を元に作成

考察：18歳人口の急激な減少期を迎えつつある中で、志願者数が微減で推移している背景には、2021年度実施の入学者選抜方法の改正をはじめ、2023年度五橋キャンパスの開学と4学部5学科の新設が複合的に影響していると推察される。都市型キャンパスへの移転・統合は、志願者に対する本学の魅力向上と社会的評価につながった可能性が高いと思料される。ただし、近隣大学においても志願者数を増加させている大学もある点は留意が必要である。

(2) 宮城県の中中学校3学年生徒数と東北学院高等学校・東北学院榴ヶ岡高等学校別志願者数の推移



入学定員：東北学院高等学校 360名（内部進学者含む）、
東北学院榴ヶ岡高等学校 270名

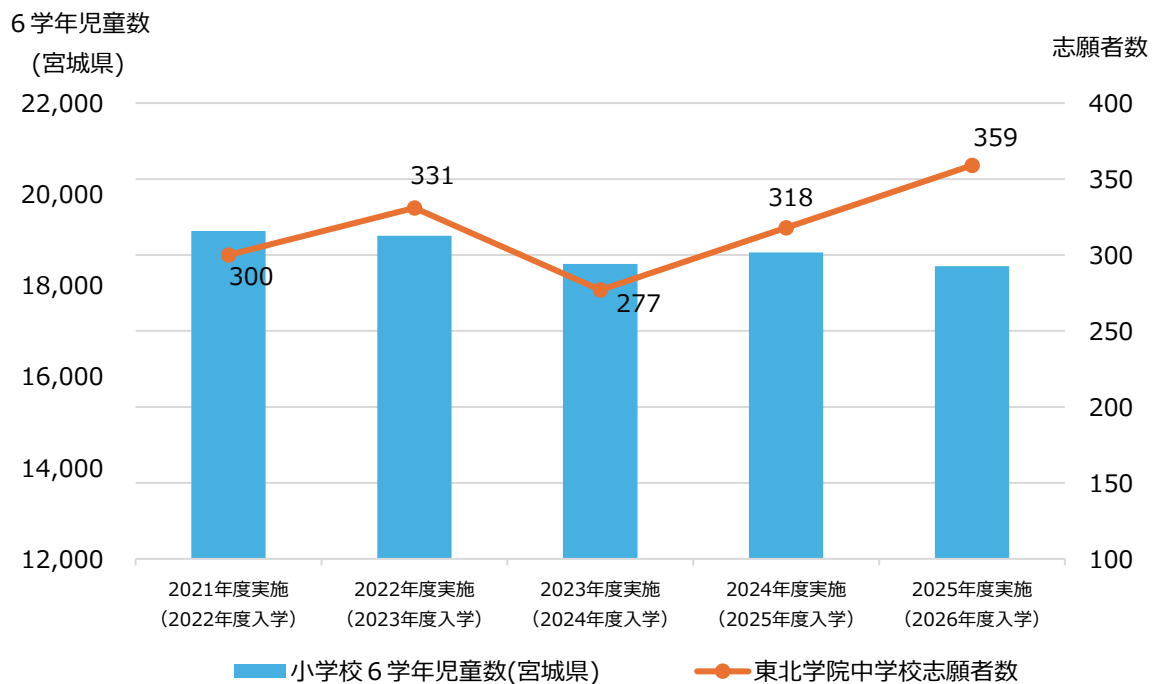
＜出典＞文部科学省「学校基本調査」（令和3年度～令和7年度）

※宮城県の中学3学年生徒数は中学校、中等教育学校及び義務教育学校の学年別生徒数を元に作成

考察：

- ・東北学院高校：共学化の2年目となる2023年度入試の志願者は、2022年度を上回る志願者を得た。2025年度以降も堅調に志願者数を維持している。
- ・東北学院榴ヶ岡高校：コース制の導入を経て2025年度の旧大学泉キャンパス2号館への校舎移転を受け、2025年度入試の志願者は1,555名（前年度比179名増）をピークとして好調に推移。

（3）宮城県の小学校6学年児童数と東北学院中学校志願者数の推移



募集定員：東北学院中学校 180 名

＜出典＞文部科学省「学校基本統計」（令和3年度～令和7年度）

※宮城県の小学校6学年児童数は学年別児童数を元に作成

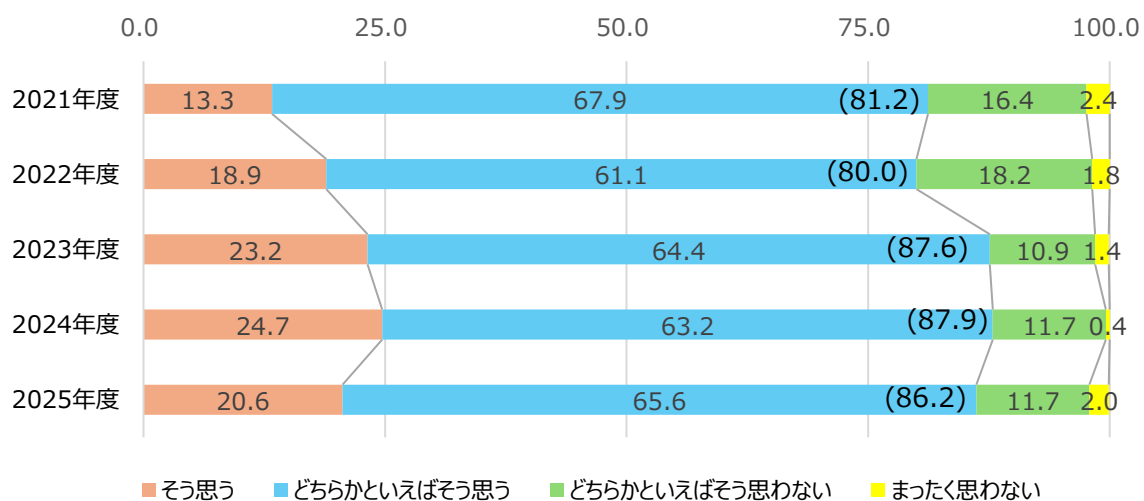
考察：

- ・東北学院中学校の共学化2年目（2023年度入学）の志願者数が初年度を上回った。また、2025年度実施（2026年度入学）ではさらなる増加を記録した。第Ⅱ期中期計画に基づく共学化等の学校改革が順調に進展し、受験生・保護者からの支持が一時的なものではなく、継続的な評価として定着していると推察される。

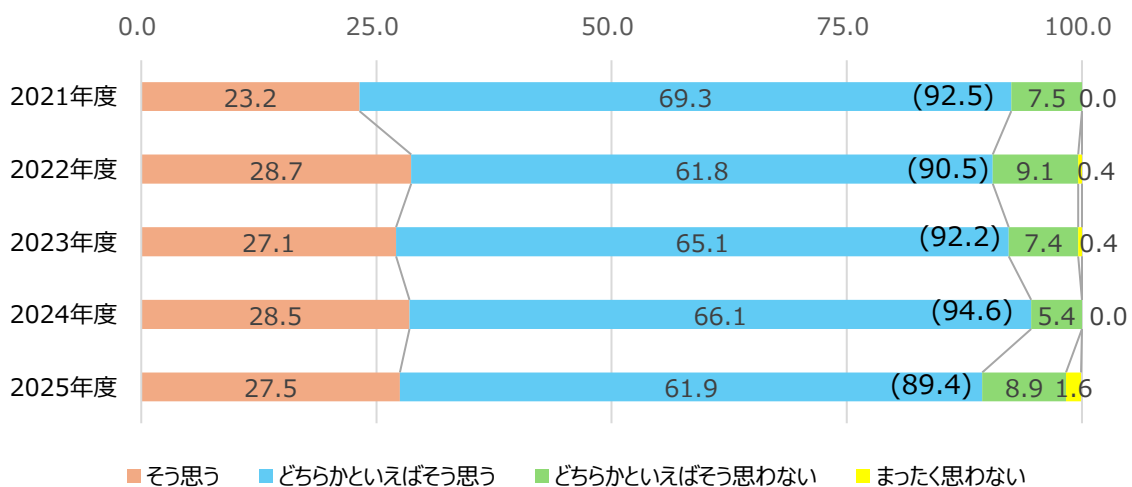
(4) 東北学院大学の卒業生に対する就職先からの学修成果調査の推移

※グラフ内のカッコ（ ）はポジティブ回答の合計値

Q8 高度な知的活動に必要な汎用的諸技能・能力及び英語力を活用できる。

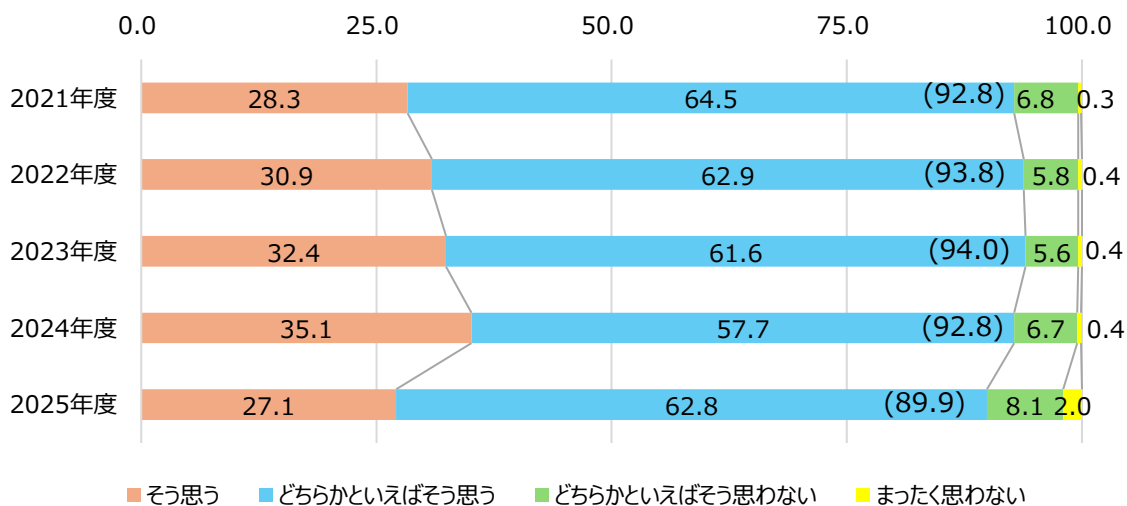


Q9 ものごとを広く多様な視点から認識し、異なる認識・思考方法や価値観に理解を示すことができる。

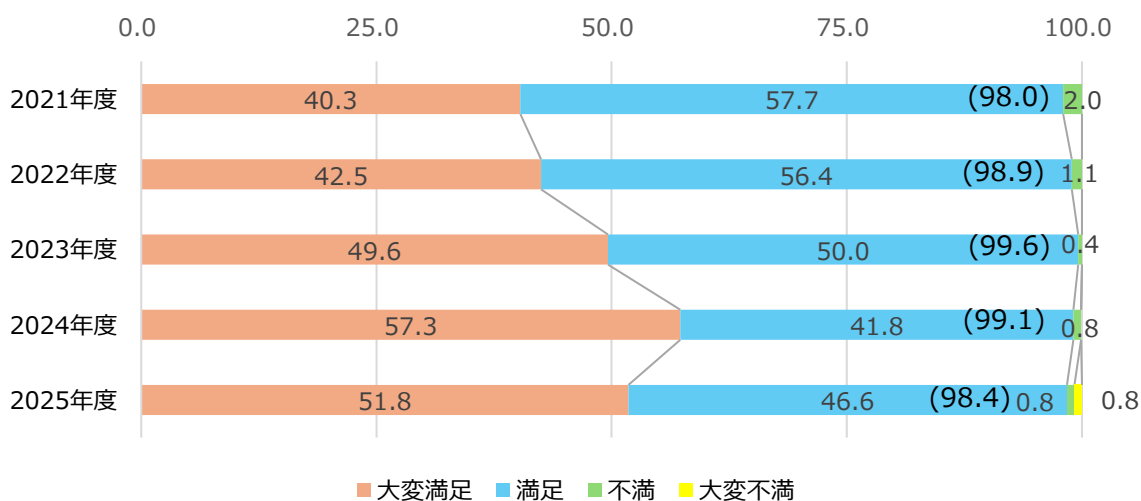


<出典>「東北学院大学 卒業生進路・就職先への学修成果調査」2021～2025 年度より

Q11 課題を発見し、その解決のために学修成果を総合的に活用できる。



Q15 卒業生への総合的な評価



<出典>「東北学院大学 卒業生進路・就職先への学修成果調査」2021～2025 年度より

考察：

第Ⅱ期の政策目標において、社会に求められる人材育成を掲げ、各種施策を推進した結果、卒業生に対する就職先からの各評価項目及び総合的な評価は、概ね高水準を維持しつつ、微増傾向で推移している。この結果は、本計画に基づく教育課程の改定やキャリア支援の強化といった多様な取り組みが、一過性の効果にとどまらず、ステークホルダー（産業界・社会）からの安定的な信頼と評価として定着しているものと推察される。

5. 第Ⅱ期中期計画の変遷：
第Ⅰ期総括から第Ⅲ期策定まで

第Ⅱ期中期計画の変遷：第Ⅰ期総括から第Ⅲ期策定まで

※本表において「学校法人東北学院企画委員会」は「企画委員会」と表記。

年度	主な取り組み	
2020 年度	7 月	第Ⅱ期中期計画（素案）に対する意見募集の実施[実施期間：7月6日～20日]
	9 月	第Ⅱ期中期計画（素案）に対する意見募集結果報告
	10 月	第Ⅱ期中期計画概要及び実行計画作成説明会開催（全7回） 【法人・大学】10月13日(土樋)、10月21日(多賀城)、10月23日(泉)、 10月29日オンライン 【中・高】10月8日 【榴ヶ岡高】 10月12日 【幼稚園】10月7日
	1 月	【企画委員会[1月28日]】第Ⅱ期中期計画(最終案)、スクールモットー制定審議
	2 月～3 月	【常務理事会[2月10日]、理事会・評議員会[3月4日]】 第Ⅱ期中期計画(最終案)、スクールモットー制定審議
2021 年度	4 月	第Ⅱ期中期計画 1 年目開始（実行計画：183 件）
	7 月	『TG Grand Vision 150（東北学院中長期計画）第Ⅰ期中期計画(2016～2020 年度)総括』 発行
2022 年度	6 月	企画委員会所管「学校法人東北学院ブランドデザインプロジェクト」設置
	6 月～8 月	「東北学院のブランド戦略に向けたイメージ調査」の実施（対象：教職員、学生・生徒、保護者、卒業生）
	8 月	「学校法人東北学院ブランドデザインプロジェクト主催ワークショップ」開催[8月8日]
	9 月	新学部・新学科・教養教育センター対象：第Ⅱ期中期計画概要及び実行作成説明会[9月16日]
	3 月	「学校法人東北学院ブランドデザインプロジェクト」にて法人新ブランドマーク策定、クレドカード及び襟章の作成、名刺リニューアル
2023 年度	6 月～8 月	第Ⅱ期中期計画 実行計画中間検証の実施
	10 月	『「TG Grand Vision 150（東北学院中長期計画）第Ⅱ期中期計画(2021～2025 年度)」実行計画中間検証 実施報告書』発行
	10 月～11 月	「学校法人東北学院ブランディング展開に関するアンケート」の実施（対象：教職員）
	12 月	第Ⅲ期中期計画策定方針 完成 [企画委員会（12月20日開催）承認]
	1 月	第Ⅲ期中期計画策定方針 学内公表
	1 月～2 月	「学校法人東北学院ブランドデザインプロジェクト主催ワークショップ」開催[1月26日、2月15日]
2024 年度	5 月～8 月	第Ⅱ期中期計画 KGI に基づく中間検証の実施
	7 月～8 月	第Ⅲ期中期計画策定に関するアンケート調査の実施 [実施期間：7月18日～8月9日]
	8 月	企画委員会主催研修会の開催[8月5日] 「学校法人を取り巻く経営環境の現状・課題・今後」
		トップマネジメントインタビューの実施[8月28日]
	10 月	企画委員会小委員会 設置・検討開始
		『「TG Grand Vision 150（東北学院中長期計画）第Ⅱ期中期計画(2021～2025 年度)」KGI に基づく中間検証 実施報告書』発行
	1 月	企画委員会小委員会「政策目標・施策検討チーム」検討開始
	2 月～3 月	「学校法人東北学院ブランディング展開に関するアンケート」の実施（対象：教職員）
	3 月	企画委員会小委員会「指標管理チーム」検討開始
2025 年度	7 月	企画委員会小委員会 第Ⅲ期中期計画(素案)完成
	8 月	【企画委員会[8月5日]】第Ⅲ期中期計画(素案)審議・承認



2025 年度	8 月	企画委員会主催研修会の開催[8月7日] 「大競争時代の私立学校～誰も経験したことのない超少子化時代への対応～」	
		第Ⅲ期中期計画(素案) に対する意見募集の実施 [実施期間：8月6日～25日]	
	9 月	【企画委員会[9月17日]】第Ⅲ期中期計画（案）審議・承認	
		第Ⅲ期中期計画（案）学内公表 [9月18日]	
		第Ⅲ期中期計画 実行計画の作成依頼 [9月24日]	
		第Ⅲ期中期計画(素案) に対する意見募集結果 学内公表 [9月26日]	
	10 月	第Ⅲ期中期計画(案) 概要及び実行計画作成説明会の開催 【法人・大学】10月9日 【中・高】10月23日 【榴ヶ岡高】 10月16日 【幼稚園】10月21日	
	11 月～12 月	第Ⅲ期中期計画(最終案) 調整期間	
	11 月	第Ⅲ期中期計画 実行計画提出締切[11月20日]	
	12 月	【企画委員会[12月17日]】第Ⅲ期中期計画（最終案）審議	
	2 月	【常務理事会[2月12日]】第Ⅲ期中期計画(最終案)審議	
	3 月	【評議員会[3月5日]】第Ⅲ期中期計画(最終案)審議 【理事会[3月5日]】 第Ⅲ期中期計画(最終案)審議	
		企画委員会主催「第Ⅲ期中期計画 実行計画における KPI 設定研修会」開催[3月17日]	
2026 年度	4 月	第Ⅲ期中期計画 1 年目開始（実行計画：95 件）	



TG Grand Vision 150（東北学院中長期計画）
第Ⅱ期中期計画（2021～2025年度）全体総括報告書

編集・発行 学校法人東北学院企画委員会

<https://www.tohoku-gakuin.jp/>

〒980-8511仙台市青葉区土樋一丁目3番1号

（法人事務局庶務部企画課）

2026年7月